

令和7年度（公社）砂防学会北海道支部 講習会
大正泥流の動態と被害の実態 - 十勝岳大正泥流100周年に向けて -

主催：（公社）砂防学会北海道支部、上富良野町、美瑛町

後援：北海道開発局、北海道森林管理局、北海道、十勝岳ジオパーク推進協議会、
北海道大学広域複合災害研究センター

令和7年10月17日（金）13時30分～16時00分

場所：上富良野町保健福祉総合センター「かみん」（上富良野町大町2丁目8-4）

プログラム

13時30分 開会あいさつ 美瑛町

13時35分 講習会の趣旨説明 砂防学会北海道支部

13時40分 話題提供1：「火山泥流とは」

山田 孝 砂防学会北海道支部シニアアドバイザー

北海道大学農学研究院特任教授・広域複合災害研究センター兼務教員

14時00分 話題提供2：「大正泥流の動態と被害の実態」

南里 智之 砂防学会北海道支部長・北海道大学広域複合災害研究センター教授

15時00分 話題提供3：各機関の火山泥流対策（各5～10分）

- ・北海道開発局による砂防事業
- ・北海道森林管理局による治山事業
- ・北海道による砂防事業
- ・上富良野町による火山泥流への準備と対応
- ・美瑛町による火山泥流への準備と対応
- ・十勝岳ジオパークによる火山泥流に関する啓発事業

15時45分 質疑応答・総括 砂防学会北海道支部

15時55分 閉会挨拶 上富良野町

16時00分 閉会

1. 講習会開催の趣旨

大正15年(1926年)、十勝岳の火山活動による急激な融雪により発生した火山泥流(以下、大正泥流)は、美瑛町および上富良野町を泥と流木の海と化し、144名もの犠牲者を出しました。この十勝岳の大正泥流災害から、来年で100年を迎えます。そこで、2025年10月17日(金)に、北海道上富良野町の保健福祉総合センター「かみん」において、「大正泥流の動態と被害の実態—十勝岳大正泥流100周年に向けて—」と題した講習会を開催しました。

この大正泥流災害は、我が国の火山地域における代表的な土砂災害の事例として記録されており、その被害状況や復旧・復興の困難さは、旭川市出身の小説家・三浦綾子氏の作品『泥流地帯』にも詳細に描かれています。北海道には、全国的に見ても活発な火山が多く存在し、今後も火山泥流による被害が懸念されています。

この講習会では、火山泥流による災害の特徴など基本的な考え方を共有し、大正泥流の動態や被害の実態に関する重要な学術研究成果や、砂防・治山事業の成果、地元自治体による防災・減災の取り組み等を共有します。その上で、火山泥流対策に関する研究・技術開発の課題、火山泥流発生後の地域での生産活動・生活維持のための課題、地域住民への啓発や教育のあり方などについて議論を深め、効果的な火山泥流対策に向けた社会連携のあり方を展望するために開催しました。

2. 講習会の概要

講習会には、写真1に示すように、関係行政機関や民間、マスコミ、一般住民の70名が会場に対面での出席、またオンラインで130名の参加と計200名にのぼる多くの方々に参加いただき、盛況なイベントとなりました。

はじめに、地元を代表して美瑛町の吉川智己副町長から、来年は大正泥流災害から100周年、いつ起こっても万全な体制が取れるよう、日ごろから関係機関との連携・協力を進めていく必要があるとのご挨拶をいただきました。

砂防学会北海道支部運営委員・北海道建設部河川砂防課課長補佐の片岡勝裕氏による講習会の趣旨説明の後、話題提供1として、北海道大学農学研究院特任教授・砂防学会北海道支部シニアアドバイザーの山田孝氏より、「火山泥流とは」と題して、海外の事例を含めて、火山泥流の発生タイプや規模、流下実態など、映像や実験の動画を交えて火山泥流災害の特徴についてご紹介いただきました。

次いで、話題提供2では、筆者から「大正泥流の動態と被害の実態」という題で、大正泥流を当時実際に目撃した19名の体験者への聞き取り調査と実際の目撃地点での現地体験照合に、堆積物や侵食域の現地調査結果を加えて作成した氾濫範囲、到達時間、被災度の情報を示した災害実績図を示すとともに、大正泥流の再現CGを紹介しました。話題提供3では、次のとおり6つの機関から、火山泥流対策について情報提供いただきました。

- ・北海道開発局(旭川開発建設部旭川河川事務所 宝住所長): 十勝岳直轄火山砂防事業による整備状況、砂防施設を活用した防災学習や地域活性化の取組
- ・北海道森林管理局(上川中部森林管理署 竹内統括治山技術官): 十勝岳硫黄沢の治山事業による泥流対策、遊砂地や泥流緩衝林による効果
- ・北海道(建設部河川砂防課 豊嶋砂防係長): 十勝岳の火山砂防事業による泥流対策計画の特徴、親子の火山砂防見学会による住民への啓発活動
- ・上富良野町(総務課 櫻井危機管理員): 地域防災計画、ハザードマップ、自主防災組織の構築、防災訓練の取組
- ・美瑛町(総務課 多加防災マネージャー): 住民避難訓練、災害対策本部運営訓練、

外国人を含む観光客への避難周知と誘導等の課題

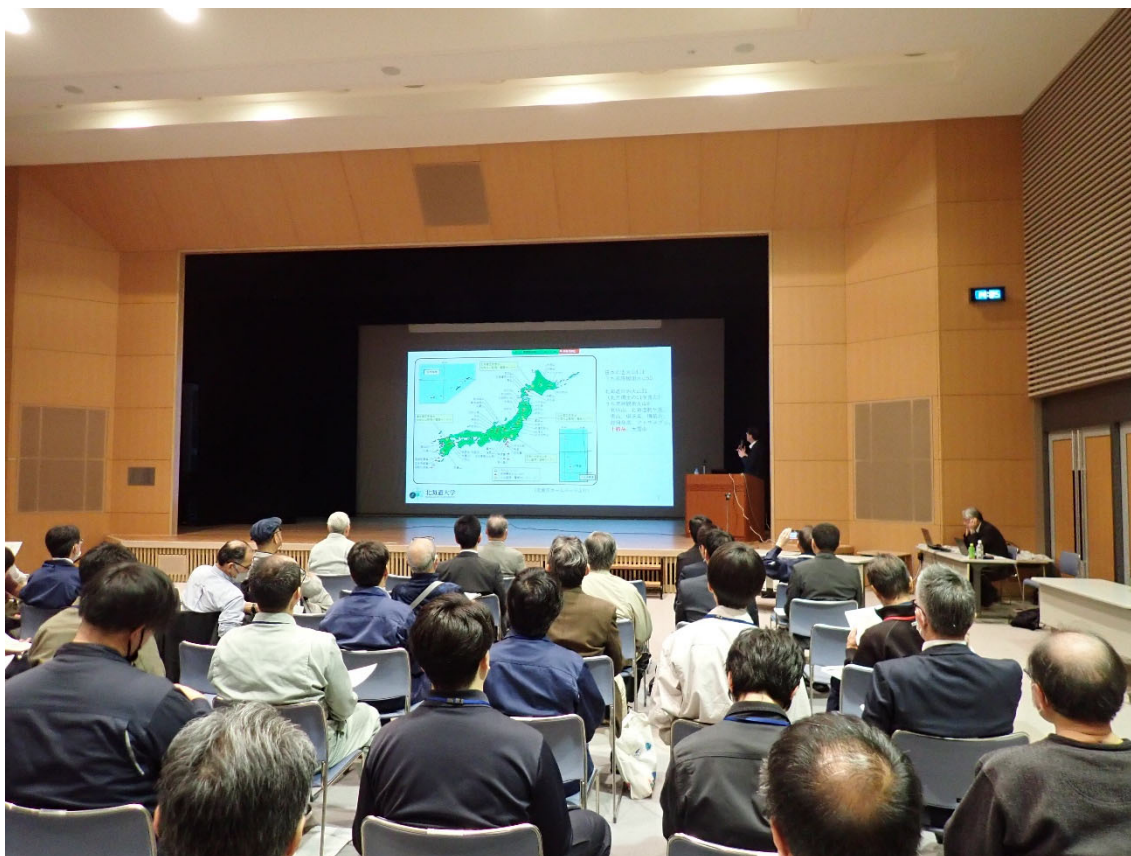
- ・十勝岳ジオパーク推進協議会（中村事務局次長）：火山泥流に関する啓発事業、火山と共生するまちづくり、防災ツーリズム、インフラジオツーリズムの取組

引き続き行われた質疑応答では、まちづくりや土地利用など今後の対策に関わる話題や、大正泥流を実際に目撃した体験者に関する質問がありました。最後に、閉会挨拶として上富良野町の齊藤繁町長から、防災教育による防災意識の向上を図り、防災訓練を徹底することで、一人も犠牲者を出さないようしっかりと取り組むとの力強いご挨拶をいただきました。

3. おわりに

講習会の様子は、地元でテレビのニュースや新聞で紹介されるなど、大正泥流災害から100周年という節目に向けて、地元の注目度も高まっています。

本講習会の企画・開催にあたり、地元の上富良野町、美瑛町の関係各位に多大な支援をいただきました。ここに深く感謝の意を表します。また、話題提供いただいた6機関の皆様には、お忙しい中、快くお引き受けいただき、この場を借りてあらためてお礼を申し上げます。



写真－1 講習会の状況